

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験の対全国平均比率の向上 ・国公立大学進学者数の増加 ・難関私立大学進学者数の増加
計画名	春日丘MOSTプラン

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、新たな伝統を創りあげる。ア 生徒が自学自習できるように、学ぶ意欲の喚起ならびに方法の習得を図り、併せて適切な校内環境を整備する。イ 学習の実態やニーズを踏まえ、探究的な学習活動等を取り入れて課題を設定し解決する力や、科学的な見方、考え方、表現力等を育成するとともに、生徒の進路保障につながる教育課程の見直しと再構築に取り組む。ウ グローバルな視野を持った生徒の育成に向けた教育を開発・実践する。</p> <p>2 志を高く進取の気概を持った、生徒一人ひとりの積極性と創造性を育む。(1)生徒が主体的に学習に取り組むよう、環境を整備し授業の改善を図る。(2)グローバル化への対応・ICT化への対応を推進する。(3)TOEFL等への対応力と英語コミュニケーション能力を育成する。</p>
事業目標	<p>①平成26年度から始めたアクティブ・ラーニングによる授業改善を、ICT環境の充実によってより一層推進していく。</p> <p>②教員だけでなく生徒も積極的に活用して、生徒の主体性・積極性を引き出す授業活動・特別活動等によって、思考力・判断力・表現力の充実を図る。</p> <p>③グループ活動等を通じて生徒のリーダーシップを引き出し、本校の特色である自主・自律に基づく活動をより活性化させる。</p> <p>④生徒の主体性の向上によって、目標からの逆算による時間管理能力を育成して、キャリアアップをめざす態度を育成する。</p> <p>⑤キャリア展望の能力を育成することによって、学校での授業・部活動や行事等の特別活動・家庭学習を総合的に計画・実行できる力を育成し、大学進学だけが目標ではなく、進学後のセルフ・マネジメント能力を育成する。</p> <p>*達成度の判定指標は客観性を担保できるものとし、「成果の検証方法と評価指標」に年度ごとに示す。また、⑤については、追跡調査を実施する。</p>
整備した 設備・物品	天井吊下げ型プロジェクター24台（普通教室）、書画カメラ5台
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：「春日丘みらいプロジェクト（春プロ）」 取組みの実施者：全教員の70%をめざす、生徒による活用も推進する
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの職員研修（5・7・10・12月） ・「先進的取組の情報収集（712・1月）：ベネッセ、京都市立西京高校、立命館中・高校他 ・「春日丘みらいプロジェクト（春プロ）」メンバーを中心に本校での活用に向けての研究と職員研修の企画・実行
成果の検証方法 と評価指標	<p>①授業アンケート「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」：H27の平均以上</p> <p>②学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立っている」「授業態度はどうか」：積極的回答75%以上</p> <p>③センター試験各科目平均値：全国平均の1.17倍</p> <p>④国公立大学・難関私立大学合格者（現浪）：国公立110名、私立600名</p>
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <p>①授業アンケート「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」：H27平均3.08以上 ←3.11：達成（○）</p> <p>②学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立っている」「授業態度はどうか」：積極的回答75%以上 速報値80.7%、81.1%：達成（○）</p> <p>③センター試験各科目平均値：全国平均の1.17倍 ←速報値1.15倍：及ばず（△）（国数英では1.18倍）</p> <p>④国公立大学・難関私立大学合格者（現浪）：国公立110名、私立600名 ← 国公立106名、難関私立大518名（△）</p>
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター本体を安価にして、その分で黒板貼り付けの白いスクリーンを購入しようと思っていたが、それがかなわず、色が正確に出ないために、教科によっては使い勝手がよくない面があることも分かってきた。工夫をしながら、もっと稼働率を上げていきたい。 ・成果指標は、平成28年度はかなりのところまで達成できたので、その調子を継続できるようにしたい。 ・センター試験の全国平均との比較では、国数英では検討しているが、過年度卒業生に有利な社理が入ると苦戦する。社会の指導を工夫して成績を上げるようにしたい。 ・合格実績は、進路希望の多様化で目標達成は厳しい状況だが、国公立・難関私立にこだわる指導は避けたいので、この厳しさは続くだろう。